

令和6年度下半期 スケジュール

カワナ生息数調査

場所：北小木川・神明洞川 期日：令和6年11月12日（火）9：00～ 雨天の場合は11月18日（月）に延期

市天然記念物「北小木のホタル」調査の一環として、ホタルの幼虫の餌であるカワナ（巻貝の一種）の生息数調査を北小木川と神明洞川で毎年秋に行っています。ボランティアにご協力いただける方を募集しています。詳細はホームページをご確認ください。

北小木川の草刈

場所：北小木川 期日：令和6年11月17日（日）9：00～ 雨天の場合は12月1日（日）に延期

市天然記念物「北小木のホタル」の住みやすい環境作りのため、北小木川の草刈を実施します。ボランティアにご協力いただける方を募集しています。詳細はホームページをご確認ください。

多治見市文化財保護センター 企画展「陶器商のお蔵」

期間 令和7年1月27日（月）～6月20日（金）開館時間：9:00～17:00（最終入館16:30）土曜日・日曜日・祝日は休館

明治時代に美濃焼の生産販売が自由になり、多治見は集散地として活気にあふれていきました。近年寄贈のあった資料を中心に、明治時代から昭和時代までの陶器商の商売や暮らしについてご紹介します。

「清流の国ぎふ」文化祭2024 ※詳細はホームページをご確認ください。

小木棒の手さんまい 県重要無形民俗文化財「小木棒の手」の体験会と特別披露会、パネル展示を行います。

開催日：10/26（土）

水月窯 窯焚き体験 国重要無形文化財保持者の荒川豊蔵が築いた水月窯で窯焚き体験、パネル展示を行います。

開催日：11/10（日）

永保寺五峰庵公開と茶会 市名勝「永保寺境内」にある五峰庵を特別公開し茶会を開催します。文化財展示等も行います。

開催日：11/23（土祝）

技で魅せる！文化財3選 小木棒の手・水月窯・五峰庵 受け継がれてきた技や道具などを中心に展示を行います。

期間：10/16（水）～11/4（月休）



自然と人の文化

No.64 2024年10月発行

編集・発行 多治見市文化財保護センター

発行部数：1,300部（税込55,770円）
この冊子は環境に配慮した紙・インクを使用しています。

Instagram



X



ホームページ



アカウントは@tajimi_bunkazai

多治見市文化財保護センター

〒507-0071 岐阜県多治見市旭ヶ丘10-6-26
TEL (0572) 25-8633 FAX (0572) 24-5033
E-mail hogo-cen@city.tajimi.lg.jp
開館時間：9:00～17:00（最終入館16:30）
休館日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始
入館料 無料
<https://www.city.tajimi.lg.jp/bunkazai/>

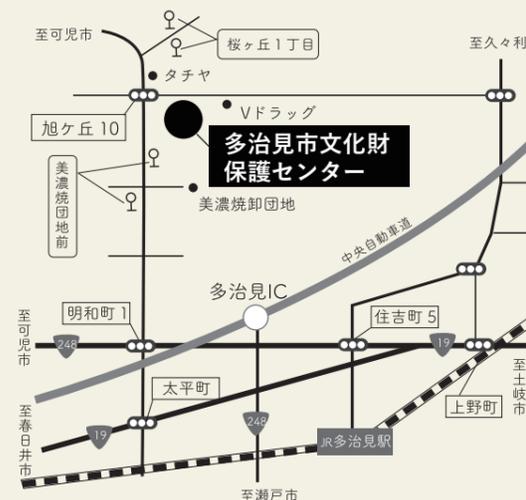
ACCESS

自動車

多治見ICより車で約10分

電車・バス

JR多治見駅北口より東鉄バス（名鉄緑台線・桜ヶ丘ハイツ線または緑ヶ丘線）に乗車「桜ヶ丘1丁目」または「美濃焼団地前」下車・徒歩5分



自然と人の文化

多治見市文化財保護センターだより No.64 2024.10

開催中です！

2024. 7.22（月）→12.20（金）

特別開館 12.8（日）



多治見市にある指定・登録文化財の数は105。それらひとつひとつの文化財が、その時々で大切に保護・保存・修理・継承され、その背景には人々の営みの歴史があります。窯をつくり、土を成形した工人たち。新しい表現のかたちを求め続ける陶芸家。祈りの場を守り伝えてきた人々。季節のうつろう姿を木々や植物から味わい、技術・技法に敬意をはらった人々の歴史を、たくさんの人に知ってほしいという願いとともに『多治見の文化財』改訂第10版が令和6年3月に発行となりました。本展では、この書籍で紹介している文化財を中心に展示しています。自分だけの「かわいい！」という解釈を大切に鑑賞すると、きっと展示品との接点が見つかるはずです。文化財に敷居の高さを感じている方々も、カジュアルな気分でお楽しみください。

た
か
わ
い
い
！

の
ぶ
ん
か
ざ
い

塗り絵や子ども向けワークシート、
子ども向けの作品ガイドを用意して
お待ちしております！



子ども向けのワークショップを開催しました

7月27日、ワークショップ「おりべ色のボウルをつくろう！」を開催しました。陶芸家の鈴木徹さんを講師にお招きし、土に楡目模様などを付け、オリジナルのボウル作りを行いました。作品づくりのあとは、展示室で作品を鑑賞。作家の方と一緒に作品を鑑賞するという贅沢で貴重な時間となりました。ワークショップ後、鈴木徹さんに釉薬掛けと焼成をしていただき、作品をお渡ししました。管を使って丸い模様を付けたり、竹串で線を彫ったり、板で色々な跡を付けたり…。自分で付けた模様が、窯の中でどんなふうに変色するのか、完成までの時間はドキドキワクワク！ご参加いただきありがとうございました！



旧日光寺陶製狛犬一対が市有形文化財に指定されました

旧日光寺陶製狛犬一対は明治時代初期に廃寺となった日光寺（笠原町）という修験道の寺院に残されていたものです。阿吽形ともほぼ完形の陶製狛犬で、錆釉が全面に施されています。背面に刻書があり、元治2年（1865）に笠原の加藤佐助が作ったものであることがわかります。また、底面には墨書で施主の名前が記されています。作者佐助は笠原神明宮所蔵の市有形文化財の狛犬2対も製作している江戸時代末期の陶工で、「佐助の狛犬」という昔話が地域に伝わっています。この昔話によれば、佐助は茶碗作りの名人で腕のいい陶工だったといわれています。その一方で、佐助は誰かれなく突拍子のないことをいって人をつき面白がる一面があったようで、「佐助鉄砲」というあだ名があったとも伝えられています。



企画展「かわいい！たじみのぶんかざい」で展示しています

陶芸家の鈴木徹さんが「織部」で市無形文化財に指定されました

桃山時代、「茶の湯」の流行に呼応して美濃窯で誕生した独自の茶陶は「美濃桃山陶」と呼ばれています。「美濃桃山陶」には、黄瀬戸、瀬戸黒、志野、織部の4種が代表的で、そのうち「織部」は、それらの技術の集大成として17世紀初頭に誕生しました。「歪み」と「色彩」を特徴とする織部は「破格の器」とも称され、日本陶磁史上に大きな変革をもたらしました。鈴木徹さんは織部の中でも特に銅緑釉を使い、織部という範疇を超えたものを表現したいとの思いから、現代の技術で独自の作品を作り上げています。



鈴木徹《緑釉花器》



鈴木徹《緑釉花入》



『多治見の文化財』改訂第10版好評発売中です

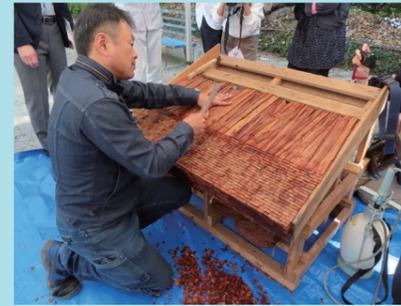
4月15日、『多治見の文化財』改訂第10版が発売となりました。多治見市文化財保護センターのほか、市役所、多治見市PRセンター等でご購入いただけます！詳しくはホームページをご覧ください。

『多治見の文化財』改訂第10版 販売価格 1,650円（税込）

information

多度神社本殿保存修理工事現場見学会を開催しました

4月14日（日）、市有形文化財「多度神社本殿」の屋根葺替や檜皮葺を学ぶ見学会を行いました。



「手斧」を使った軒付の技、檜皮を成形する「綴皮」の作業や、葺きの技術など、屋根技師の職人さんの仕事を間近で見学。貴重なお話を聞くことができました。多数の方にご参加いただき、ありがとうございました。

長福寺所蔵・大日如来坐像を修理しています

弁天町にある長福寺所蔵の大日如来坐像。像高38.5cmの木造の仏像で、多治見市の文化財に指定されています。今回行う修理の内容は、亀裂や浮き上がり箇所樹脂等による剥落止め、亡失した垂飾金具の新補（色彩も再現）等。約1年間かけて修理が行われます。修理方法を検討するためのCT撮影では、仏像内部が空洞になっていることが新たに判明しました。



胸前で智拳印を結び、結跏趺坐の姿勢をとっています。頭上に戴いた宝冠の左右には簪を付け垂らし、身体には絛・腰布・天衣を纏っています。



垂飾金具の新補（左側）

中央上部に宝塔、中央には八葉蓮華、光脚部に蕊・花弁をそれぞれ表した美しい光背。周縁部は、雲気が立ち上がる様子が透彫りで表現されています。

北小木のホタル

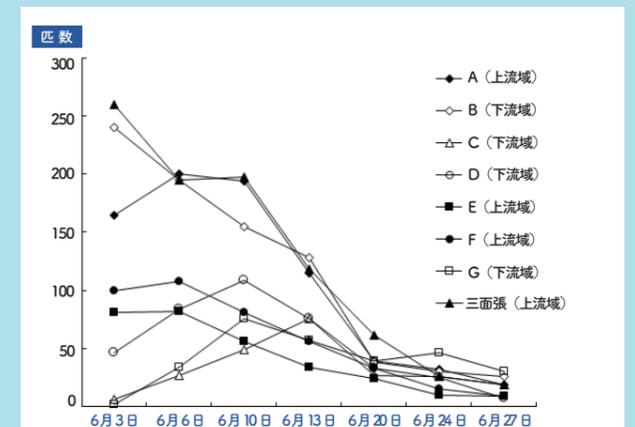
北小木町に毎年数多く飛び交う「北小木のホタル」は、多治見市天然記念物に指定されています。今年も、6月初めから7月半ばにかけて、発生状況の調査を行いました。



今年のゲンジボタル生息数調査で確認できた数（4,185匹）は昨年（1,708匹）の約2.5倍となりました。6月上旬から下旬にかけて緩やかに生息数が減少していくといった昨年のようなパターンではなく、月半ば時点を境に一気に生息数が減少するという結果になりました（グラフ参照）。また、調査下流域においては過去最多の生息数となった地点（グラフの6月10日D地点）もあり、例年生息数の少ない下流域におけるホタル生息環境の改善が見られました。

令和4年の調査以降減少を続けているヘイケボタルの生息数については、ヘイケボタルが生息するための水場を維持する等の環境を整えることで今後の増加を見込めると考えています。

今年のゲンジボタル生息数の変化



上流域（A地点：天王橋上流 E地点：宮下橋上流 F地点：宮下橋下流 三面張：三面張改修地点）
下流域（B地点：天王橋下流 C地点：打越橋上流 D地点：打越橋下流 G地点：八宮橋上流）
※天王橋を境に上流域と下流域に分ける